喫煙可

学内管理エリア設置へ

「全面禁煙は堅持」強調

キャンパス全面禁煙施行から1年半になる。喫煙者の減少など効果もみられる一方で隠れての喫煙や近隣での路上喫煙が目立つようになった。特に衣笠キャンパス近くの路上での喫煙は火災のリスクが高く問題となっている。これを受け、大学は火災防止の観点から衣笠キャンパス内に管理エリアを設置している。＝2面に関連記事

学生たちが声を出してキャンパス全面禁煙を呼び掛ける
＝10月24日午後、ＢＫＣユニオンスクエア前

立命館大は学内での受動喫煙を防ぐことなどを目的に、2013年度よりキャンパス全面禁煙を施行している。全面禁煙から1年半が経ち、一定の成果も表れている。08年度には9・7％であった同大の学生の喫煙率は13年度には3・8％にまで下がっている。

その一方で、深刻な課題も浮き彫りになってきた。学内では人の少ない場所での隠れての喫煙、学外ではキャンパス近くの路上での喫煙が増えている。昨年度には、ＢＫＣでたばこの不始末が原因と思われるぼやが発生している。また衣笠キャンパスの近隣には住宅街、寺院が密集しており火災に発展した際には取り返しのつかない事態になることも想定される。

存心館裏側に設置された管理エリア＝衣笠

大学と共同で禁煙指導を行う近隣の寺院からは「キャンパス全面禁煙以降に大量のたばこが投げ込まれるようになった」といった指摘があるように一部では非常に悪質なケースも見られ、もはや看過できない状態となっていた。

これらの問題を受け、衣笠キャンパスでは後期セメスター開始の9月26日より近隣での火災防止を目的に管理エリアを設置している。設置場所は3カ所で、いずれも受動喫煙のリスクが少ないキャンパスの隅に位置している。ＢＫＣでも今後の設置を予定している。

今回の管理エリア設置はあくまでも一時的なものであり、キャンパス全面禁煙はこれまで通り継続していくという。

学生オフィス（ＢＫＣ）課長の村上吉胤さんは「キャンパス近くの路上と管理エリアの吸い殻の増減などをみて効果があると判断した際には撤去する予定」と話す。実際に設置後から路上と管理エリアの吸い殻本数をカウントしており、セメスターごとに増減を算出していく予定だ。全面禁煙政策を堅持する大学としては、早い撤去を望んでいる。

管理エリア設置後も従来通り近隣での路上喫煙は警備員や職員から注意をするとしている。寺院への吸い殻投げ込みへの対策も検討中である。

喫煙マナー考えるきっかけに

学生ら中心に呼び掛け

火災防止のための管理エリア設置後も近隣での路上喫煙、さらにはエリアの外で喫煙をする学生が見受けられる。これを受け、10月14日から10日間にわたって両キャンパスで啓発キャンペーンが行われた。大学職員と学友会を中心とする学生がキャンパス全面禁煙について呼び掛けを行った。ＢＫＣでは昼休みにユニオンスクエア前で大きな声を出して呼び掛けを行うなど積極的な様子だった。

学生オフィスとして「学生同士で注意をする方が効果はある。このような取り組みを通じてキャンパス全面禁煙を徹底してもらいモラル・マナーの向上を図っていきたい」と村上さんは語った。（松田貴之）

中面PICK UP

3面 ロフト部発足

立命館大と株式会社ロフトの産学連携を受け、学生による「ロフト部」が発足した。9月下旬には部員によるアイデア発表が行われるなど本格的に取り組みが始まろうとしている。ロフト部リーダーの廣瀬堅人さん（法2）に意気込みを聞いた。

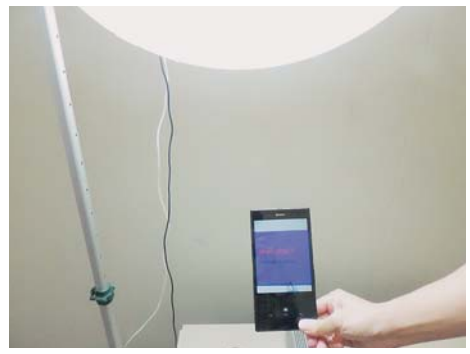
LEDでスマホの盗撮防止

熊木講師研究グループ

近年、カメラ内蔵の携帯電話の普及で、盗撮や本を購入せず、店頭で撮影するデジタル万引きが深刻な問題となっている。

立命館大理工学部電子情報工学科の熊木武志講師の研究グループはLED照明とスマートフォンの内蔵カメラとの連動で写真撮影を防止するシステムを開発したと発表した。

このシステムの開発により、スマートフォンによる盗撮防止が期待される。これまでは撮影防止シールをレンズに貼るといった方法が採られていたが、カメラの機能そのものを制御する仕組みはなかった。



ＬＥＤ照明とスマートフォンの連動で写真撮影を防止

ＬＥＤ照明は照度の強弱が絶えず変化しており、開発されたシステムではその変化を検知して作動する。レンズ付近で可視光の変化を検知し、検知した場合は撮影を阻止するシステムだ。

実用化に当たっては課題も多い。ＬＥＤ照明の照度変化による違和感の解消や、盗撮ではない健全なカメラの使用を可能にすることなどが挙げられる。

システムによる対策では行為を直接防ぐことはできても、カメラを利用する側のリテラシーが欠かせない。「モラルによるのが最適」と熊木講師は話す。たとえ犯罪を防ぐ仕組みが構築されていても、健全な意識は不可欠だ。（木部大紀）

発行所 立命館大学新聞社
発行人 阪田 裕介
〒603-8577 京都市北区等持院北町56－1立命館大学学生会館2F
直通 075(465)8253
内線 2610
〒525-8577 草津市野路東1－1－1 立命館大学セントラルアーク4F
e-mail so0405he@ed.ritsumei.ac.jp

情報は社会部へ
電話・FAX 075(465)8253
e-mail so0444xe@ed.ritsumei.ac.jp

情宣は文化部へ
電話・FAX 075(465)8253
e-mail lt0545vi@ed.ritsumei.ac.jp

11月号

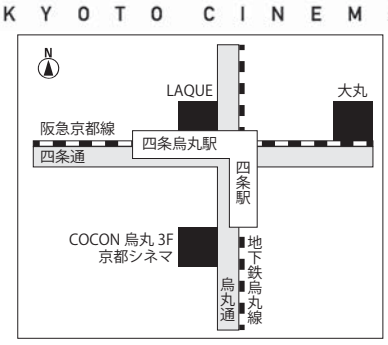
今号の紙面

盗電問題を考える…2面
ミュージカルサークル始動…4面
連覇を懸けた立同戦…5面
学生映画祭開幕近づく…6面

海神

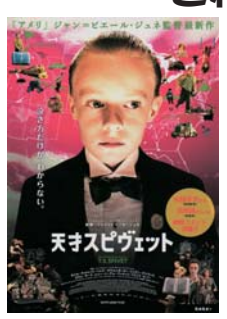
スコットランドの独立住民投票に注目が集まってから約2カ月。結果として独立はならなかったが、独立に向けた運動は世界中に衝撃を与えた▼「友情の杯を酌み交わそう」。スコットランド民謡「オールド・ラング・サイン」の一節である。旧友との再会に昔をしのびつつ杯をあげる光景がありありと思い浮かぶ▼日本では「蛍の光」として親しまれるこの歌は、別れの歌としての印象が強い。一方、スコットランドでは再会を喜ぶ内容となっている。みんなで輪を作り、曲に合わせて踊るのが習慣だそうだ▼ＮＨＫの朝の連続テレビ小説「マッサン」のテーマはウイスキー。本場で知識を得るため、スコットランドへウイスキー修行に出た青年が現地の婚約者と日本へ帰国するところから話は始まる。大正時代には珍しい国際結婚も注目したい点だ▼スコットランド人の妻エリーは、姑から受け入れてもらえない日々に葛藤する。そんな状態でも、めげずに自分を認めてもらおうとするけなげな姿に女性の力強さを感じないではいられない▼近頃の若者は、お酒を介したコミュニケーションが希薄になったといわれる。消費を控えるようになり、お酒離れの傾向があるという。せっかくの秋の夜長だ。秋の風情に包まれて、遠慮なしに酔いしれたい。もちろん、友人と酌み交わせばなおよい。酒宴を盛り上げるのは、やはり歌に限る。遠い異国を思い浮かべながら、蛍の光でも歌ってはどうだろう。

京都シネマ
KYOTO CINEMA



四条烏丸下る西側ＣＯＣＯＮ烏丸３Ｆ
阪急京都線「烏丸」駅下車23番出口よりすぐ
市営地下鉄烏丸線「四条」駅下車２番出口よりすぐ

これからの上映作品



天才スピヴェット
配給：ギャガ
11月15日（土）公開

京都シネマ
10年の10本
11月22日（土）より

大学生以下：￥1,000
TEL：075（353）4723
www.kyotocinema.jp/

11月14日（金）
18時45分（予定）
@衣笠充301
当プロジェクトと京都シネマ、京都国際学生映画祭とコラボしたイベントを開催！
詳しくは
ツイッター@rits_kyocine

「映画館とは？地域の中の役割」プロジェクト